

科目名	老年看護学概論	対象学生・時期	1 年生・後期	
		講義時間（単位）	15 時間（1）	
講師名	①外部講師			
科目目標	1．高齢者の身体的・社会的・精神的特徴とその生活について理解する 2．社会構造の変化と保健医療福祉制度の動向を理解する 3．老年期における健康課題と看護の役割について理解する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	高齢者の理解の基本となる概念	1．ライフサイクルから的高齢者の理解 1) 老年期の定義 2) 加齢と老化 3) 老年期の発達課題 エリクソン、ペック、バトラー 2．生活史から的高齢者の理解 1) 生活史からみた高齢者 2) 高齢者の多様性	講義	①
2	高齢者の生活	1．高齢者の生活の変化 1) 生活の場、住宅環境 2) 生活リズムと生活習慣 3) 役割と生活活動、余暇活動 4) 就労・雇用 5) 収入・生計 2．加齢に伴う変化 1) 加齢に伴う変化の特徴 2) 身体的変化 3) 精神的変化 4) 社会的変化 5) セルフケア		
3	高齢者の健康	1．老年期の健康課題 (身体的・精神的・社会的) 2．健康増進・疾病予防に伴う施策や取り組み 1) 健康状態が急速に変化する対象の身体的・心理的・社会的特徴		

4	治療・介護を必要とする高齢者と家族の看護	1. 生活(療養)の場に応じた看護 (病院・施設・在宅等) 2. 高齢者と家族 1) 家族構成の変化 2) 家族形態の変化 3) 老年者と家族の人間関係 4) 介護と家族		
5	高齢者の保健・医療・福祉の動向	1. 高齢者の保健・医療・福祉の動向 1) 人口学指標 2) 健康指標 3) 老人保健法 4) 老人福祉法 5) 老人医療制度 長寿医療制度 6) 年金制度 7) 介護保険 8) 医療費の助成制度の活用 9) 保険医療福祉施設		
6	高齢者とQOL	1. 高齢者とQOL 1) 老年者の尊厳と権利擁護 2) ノーマライゼーション 3) 自立支援 4) フォーマルサービス・インフォーマルサポート		
7	老年看護の基本	1. 老年看護における倫理的課題 1) 虐待 2) 身体拘束・抑制 3) 地域福祉権利擁護事業・成年後見制度 2. 老年看護の役割 1) 経過に応じた看護 2) 治療に応じた看護		
8	単位認定試験(45分)			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	・老年看護学1 高齢者の健康と障害 メディカ出版			
備考	<参考文献> ・国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会			

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	老年看護方法論Ⅰ	対象学生・時期	1年生・後期	
		講義時間（単位）	15時間（1）	
講師名	①教官☆ ②外部講師			
科目目標	1．高齢者の加齢に伴う健康状態や日常生活能力をアセスメントする方法を理解する 2．高齢者の健康障害の特徴を理解する 3．加齢に伴う症状に対する援助方法について理解する 4．治療を受ける高齢者とその家族への看護を理解する 5．高齢者とその家族の健康・自立を支えるための基礎的援助方法を理解する 6．高齢者とその家族の自立を支える日常生活の援助を理解する 7．高齢者に特徴的な疾患について、家族を含めた看護を理解する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	健康障害のある 高齢者の特徴	1．高齢者体験	演習	①
2		2．健康障害のある高齢者の特徴 1)加齢と老化	講義	②
3		2)高齢者に多く見られる症状と看護 1)痛み 2)掻痒感 3)不眠 4)痺れ 5)冷え 6)便秘・尿失禁 7)振戦 8)脱水 9)うつ 10)難聴 11)視力障害		
4	自立を支える 日常生活の援助	1．高齢者の健康のアセスメントと 観察の視点 2．自立を支える日常生活の援助 （日常生活能力のアセスメントと 援助の方法） 1)食生活と栄養 2)活動・運動とレクリエーション 3)休息と睡眠 4)排泄 5)清潔・身だしなみ 6)性生活 7)住環境 8)対人関係		
5	寝たきりの防止と 自立支援	1．寝たきりの防止と自立支援 1)持てる力(患者の強み・患者にできる こと)に目を向けた支援 2)生活と自己管理の調整 2．身体可動性障害の高齢者の看護		
6	治療を受ける高齢者の 看護	1．治療を受ける高齢者の看護 1)手術療法時の看護 2)リハビリテーション時の看護 3)薬物療法時の看護		

7	終末期の家族のニーズ に充足の関わり	1. 終末期の家族のニーズに充足の関わり (予期悲嘆、グリーフケア等) 1) デスカンファレンス 2) 看取の場(緩和ケア病棟、在宅)		
8	単位認定試験(45分)			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	・老年看護学2 高齢者看護の実践 メディカ出版 ・根拠がわかる 症状別看護過程 南江堂			
備考				

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	老年看護方法論Ⅱ		対象学生・時期	1年生・前期	
			講義時間（単位）	30 時間（1）	
講師名	①外部講師 ②教官☆ ③看護師 ④外部講師 ⑤看護師				
科目目標	1．呼吸器系に障害をもつ対象及びその家族への看護を理解する 2．循環器系に障害をもつ対象及びその家族への看護を理解する 3．運動機能障害（骨・筋機能、脳神経）をもつ対象とその家族への看護を理解する 4．認知症、認知機能・コミュニケーション障害をもつ対象とその家族への看護を理解する 5．ハンセン病後遺症で療養している高齢者の看護を理解する				
回数	主題		主な学習内容	授業形態	担当
1	呼吸系に障害のある対象の看護	呼吸器疾患看護の基本	1．呼吸器疾患患者の看護 1) 看護の基本 （1）呼吸疾患と看護の役割 2) 主な症状に対する看護 （1）呼吸困難 （2）咳嗽、喀痰 （3）血痰、咯血 （4）胸痛	講義	①
		疾患をもつ対象の看護①	1．呼吸器疾患をもつ患者の看護 1) 自然気胸患者の看護 （1）気胸とは （2）症状 （3）主な検査・治療・処置に伴う看護 ①胸腔ドレナージ		
2		疾患をもつ対象の看護②	2) 肺がん患者の看護 （1）肺がんとは（2）症状 （3）組織型、病期分類 （4）主な検査・治療・処置に伴う看護 ①腫瘍マーカー ②内視鏡検査 ③胸腔穿刺④手術療法⑤放射線療法 ⑥化学療法⑦気管切開		
3		疾患をもつ対象の看護③	3) 肺結核患者の看護 （1）肺結核とは（2）症状 （3）主な検査・治療・処置に伴う看護 ①ツベルクリン反応②喀痰 ③PCR 検査④DOTS⑤感染予防策		

4		疾患をもつ対象の看護④	4) COPD(慢性閉塞性肺疾患)患者の看護 (1) 慢性閉塞性肺疾患とは (2) 症状 (3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 ①呼吸機能検査②血液ガス分析 ③酸素療法④非侵襲的陽圧換気療法 ⑤在宅酸素療法 ⑥呼吸リハビリテーション (体位ドレナージを含む)	講義	①
5		疾患をもつ対象の看護⑤	5) 気管支喘息患者の看護 (1) 気管支喘息とは (2) 症状 (3) 喘息強度の分類 (4) 主な検査・治療・処置に伴う看護 ①ピークフロー ②薬物療法 ③吸入療法 ④人工呼吸療法		
6	循環器系に障害のある対象の看護	循環器看護の基本	1. 循環器疾患患者の看護 1) 看護の基本 (1) 循環器疾患の心身に及ぼす影響	講義	②
		症状に対する看護	2) 主な症状に対する看護 (1) 胸痛 (2) 呼吸困難 (3) 動悸 (4) 浮腫 (5) ショック (6) チアノーゼ (7) 失神 (8) 四肢の疼痛		
7		疾患をもつ対象の看護①	1. 循環器疾患をもつ患者の看護 1) 不整脈患者の看護 (1) 不整脈とは (2) 症状 (3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 ①心電図 ②ペースメーカー ③血栓溶解療法		
8		疾患をもつ対象の看護②	2) 虚血性心疾患患者の看護 (1) 虚血性心疾患とは (2) 症状 (3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 ①心臓カテーテル ②経皮的冠動脈インターベンション ③冠動脈バイパス		

9		疾患をもつ対象の看護③	3) 心不全患者の看護 (1) 心不全とは (2) 症状 (3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 ①心臓超音波検査 ②BNP 検査 ③大動脈バルーンパンピング	講義	②
10		症状に対する看護 検査を受ける対象の看護	1. 運動機能の異常でみられる症候 1) 疼痛 2) 腫脹 3) 変形 4) 神経障害(しびれ) 5) 麻痺 6) 深部静脈血栓症 7) 出血 8) 感染 9) 褥瘡 1. 関節可動域検査 (ROM) 徒手筋力テスト (MMT) 2. X線検査 3. 脊髄造影・椎間板造影 4. 膝関節鏡 5. 筋生検	講義	③
11	骨・筋機能に障害のある対象の看護	疾患をもつ対象の看護①	1. 大腿骨近位部骨折患者の看護 1) 原因 2) 症状 3) 骨折部位と治療 4) 手術療法と看護 5) リハビリテーションと看護 2. 上腕骨骨折患者の看護 1) 原因 2) 症状(フォルクマン拘縮) 3) 治療と看護 (1) ギプス固定 (2) 副子固定 (3) バストバンド 3. 変形性関節症患者の看護 1) 変形性股関節症 (1) 原因 (2) 症状(疼痛、可動域制限、跛行) (3) 治療と看護 ①保存療法 ②手術療法 ③リハビリ(CPM、大腿四頭筋の運動) 2) 変形性膝関節症 (1) 原因 (2) 症状 (3) 治療と看護 ①保存療法②手術療法③リハビリ		

12		疾患をもつ対象の看護②	1. 椎間板ヘルニア患者の看護 1) 椎間板ヘルニアとは 2) 主な検査・治療・処置に伴う看護 2. 腰部脊柱管狭窄症患者の看護 1) 腰部脊柱管狭窄症とは (1) 原因 (2) 症状 (3) 主な検査・治療・処置に伴う看護 ①脊髄造影検査 ②神経根ブロック ③手術療法 3. 脊髄損傷患者の看護 1) 脊髄損傷とは (1) 原因 (2) 症状 (脊髄損傷レベルと症状) (3) 主な検査・治療・処置に伴う看護	講義	③
13	脳神経機能の障害のある対象の看護	疾患をもつ対象の看護①	1. クモ膜下出血患者の看護 1) クモ膜下出血とは (1) 原因 (2) 症状 ①頭痛 ②嘔吐 ③意識障害 ④髄膜刺激症状 (頸部硬直、ケルニッヒ徴候、ブルジンスキー徴候、羞明、眼球圧痛) 2) 主な検査・治療・処置に伴う看護 (1) 脳血管造影 (2) 髄液検査 (3) 開頭脳動脈瘤、 ネッククリッピング術 (4) 脳動脈瘤コイル塞栓術 (5) 術後ドレーン管理 3) 生活への看護 (頭痛への対応、正常水頭症) 2. 脳梗塞患者の看護 1) 脳梗塞とは (1) 発生機序 (2) 症状 ①意識レベル ②呼吸 ③血圧 ④運動麻痺 ⑤感覚障害 ⑥構音障害 ⑦共同偏視 ⑧失語 ⑨失行 ⑩失認 2) 主な検査・治療・処置に伴う看護	講義	④

			(1)MRI (2)CT (3)超音波検査 (4)血栓溶解療法 (5)外科的治療 ①頸動脈内膜剥離術 (CEA) ②頸動脈ステント留置術 (CAS) 3) 生活と看護	講義	④
14		疾患を持つ対象の看護②	1. 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の看護 1) 筋萎縮性側索硬化症とは (1) 発生機序 (2) 症状 ①上位・下位運動ニューロンの脱落 (全身の筋力低下) ②陰性徴候・感覚障害、眼球運動障害、膀胱直腸障害 ③認知機能障害 2) 主な検査・治療・処置に伴う看護 (1) 針筋電図 (2) 神経伝導検査 (3) 人工呼吸療法 ①非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV) ②気管切開下陽圧換気量法 (TPPV) 3) 生活への看護 (1) コミュニケーション障害に対する看護 (2) 栄養管理 (3) 呼吸管理 2. パーキンソン病患者の看護 1) パーキンソン病とは (1) 発生機序 (2) 症状 ①安静時振戦 ②無動 ③筋固縮 ④姿勢保持障害 (すくみ足、前傾前屈、小刻み歩行) ⑤ホーエン・ヤール重症度分類 2) 主な検査・治療・処置に伴う看護 (1) 薬物療法 ①ウェアリングオフ現象 ②ジスキネジア 3) 生活への看護		

15		疾患を持つ対象の看護③	1. 認知症患者の看護 1) 認知症とは (1) 発生機序 (2) 症状 ①中核症状 ・記憶障害、見当識障害、失語、失行、失認、遂行機能障害 ②行動・心理症状 (BPSD) ・抑うつ状態、徘徊、攻撃的行動、異食 2) 主な検査・治療・処置に伴う看護 (1) アミロイド PET (2) 認知症のアセスメントツール (3) 薬物療法 3) 生活への看護 2. ハンセン病後遺症を持つ高齢者への看護	講義	⑤
※ 時間外で実施	単位認定試験 (45 分)				
評価方法	筆記試験				
使用テキスト	・疾患と看護 1 呼吸器 メディカ出版 ・疾患と看護 2 循環器 メディカ出版 ・疾患と看護 5 脳・神経 メディカ出版 ・疾患と看護 7 運動器 メディカ出版 ・老年看護学 2 高齢者看護の実践 メディカ出版				
備考					

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	老年看護学演習		対象学生・時期	2年生・前期	
			講義時間（単位）	15 時間（1）	
講師名	①教官☆				
科目目標	1. 高齢者を対象とした看護過程の展開ができる 2. 高齢者およびその家族に必要な看護技術を習得する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	高齢者看護の視点	1. 高齢者看護の視点 1) 高齢者の特徴 発達課題、喪失体験、生活史、 加齢に伴う変化 2) 高齢者看護の特徴 意思決定支援と人生の統合に向けた支援、 生活機能の回復、家族との協力 ケアマネジメントとチームアプローチ		講義 個人 ワーク グループ ワーク	①
2 3	看護過程の 展開 大腿骨頸部 骨折の高齢 者（回復期）	1. 事例紹介 回復期にある大腿骨頸部骨折の高齢者 2. 高齢者の特徴に沿った情報収集とアセスメント の視点 加齢に伴う変化、セルフケア能力、 対象のニーズ、病態と経過			
4		3. 看護問題の明確化と優先順位 その人が望む生活のあり方、 高齢者のもてる力の維持・継続			
5		4. 個別性を踏まえた具体策 自立に向けたセルフケアの支援、 各機能の状況に合わせた支援、 学習の特徴を活かした支援、 強みを活かした支援、 家族のサポート			
6	看護技術	1. 大腿骨頸部骨折患者に対する指導 良肢位、移動介助、歩行介助、杖歩行		演習	
7	演習	2. 高齢者の特徴に対する看護援助 義歯の取り扱い、口腔ケア			
8	まとめ (45分)	1. 高齢者の看護のまとめ		講義	

評価方法	課題
使用テキスト	・ 老年看護学 1 高齢者の健康と障害 メディカ出版 ・ 老年看護学 2 高齢者看護の実践 メディカ出版 ・ 疾患と看護 7 運動器 メディカ出版 ・ 基礎看護学 (2) 基礎看護技術 I 医学書院 ・ 基礎看護学 (3) 基礎看護技術 II 医学書院 ・ 根拠がわかる 症例別看護過程 南江堂 ・ 看護診断ハンドブック 第 12 版 医学書院 ・ 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 ※ その他、各自必要なテキストを活用すること
備考	学習の進度により、授業形態および授業順序等を変更することがあります。

実習科目	老年看護学実習	対象学生・時期	1年生・後期
		講義時間（単位）	90時間（2）
実習目的	老年期にある対象の特徴と加齢及び健康障害による健康問題を把握し、対象に応じた看護を実践するために必要な知識・技術・態度を習得する。		
実習目標および内容			
1. 高齢者の特徴を理解し、加齢や疾病に伴う生活機能障害への看護ができる。 1) 対象の身体的特徴が述べられる。 2) 対象の精神面について述べられる。 3) 対象の社会的役割・生きがいについて述べられる。 4) 対象の生活の状態について述べられる。 5) 対象の健康に及ぼす影響因子について述べられる。 6) 加齢や疾病に対する対象の意向について述べられる。 7) 対象の生活パターンの特徴について述べられる。 8) 対象の反応を捉えながら援助ができる。 9) 対象に合わせたコミュニケーション方法を選択し実践できる。 10) 対象の自尊心や価値観を尊重した援助ができる。 11) 検査・治療を受ける対象への援助ができる。 12) 対象の生活機能の回復を促す援助ができる。 13) 対象に予測される二次障害・危険を予防するための援助ができる。			
2. 高齢者のQOL維持・向上に必要な多職種との連携を理解する。 1) 入院・治療が家族に及ぼす影響と支援の必要性について述べられる。 2) 対象や家族を支える社会資源について述べられる。 3) 対象に関わる多職種とその役割について述べられる。 4) 対象のQOL維持・向上のための多職種連携の実践が述べられる。 5) 多職種連携の中における看護師の役割が述べられる。			
3. 看護実践の振り返りを通して自己の課題を明確にできる。 1) 個人およびチームと良好な人間関係を築くことができる。 2) 主体的・効果的に学習できる。			
評価方法	評価表による評価		